

いのちの未来をまもるため、 勇気と叡智の結集を

ハイロアクション福島原発40年実行委員会 うのさえこ

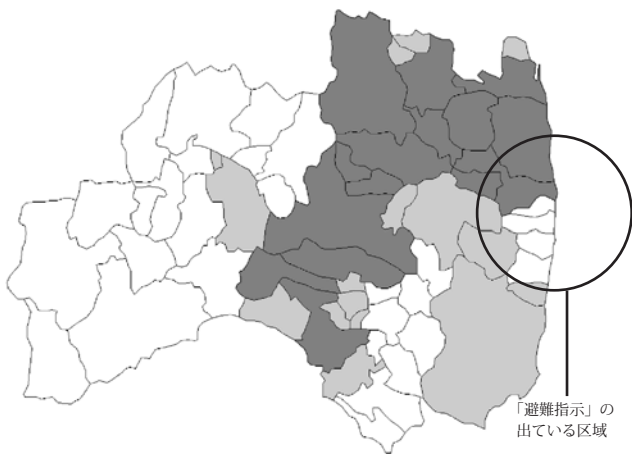
3月11日、原発の過酷事故というこれまでたくさんの人々が警鐘を鳴らしてきたことが、そのまま現実となつてしまいました。予想をはるかに超えた速さと厳しさで、私たちは、「廃炉の時代」に投げ込まれました。

福島原発は今、多大な犠牲を伴いながら、終わりにたくても終われない苦しみの中にいます。現場では必死の作業が続けられています。

事故発生以来、人々は正確な情報が圧倒的に不足した状況の中で、必死に生きる道を探しています。東電は今も各種のデータを公表せず、国は被曝に関する基準値を軒並み緩め、非科学的な「安全」情報をマスコミや学者などを使って垂れ流しています。県もそれに追従しています。

このような状況の中、3月25日ハイロアクションは、福島県および避難先の10府県で緊急声明を発表し、福島県の現状、妊婦と子どもの避難、避難区域の拡大、被曝から身を守るための情報の必要などを訴えました。そ

「放射線管理区域」及び「放射線業務従事者許容値」の基準を超える放射線が観測された福島県の市町村
(ハイロアクションHP掲載の図を基に作成)



「放射線管理区域」に当たる放射線が観測された市町村
(1.3 mSv / 3ヶ月 ≒ 0.6 μSv / h以上)

「放射線業務従事者」の許容値を超えた放射線が観測された市町村
(100 mSv / 5年 ≒ 0.6 μSv / h以上)

「市民団体の線量測定と県教育委員会への働きかけを受けて、県は小中学校幼稚園などでの放射線測定を実施。これは、公表された測定結果（H23.4.8県災害対策本部発表「福島県放射線モニタリング小・中学校等実施結果」）を元に作成された汚染マップ。福島県の浜通り中通りを中心に多くの子どもたちが、放射線管理区域内での生活を強いられているという状況を示しています

して緊急行動として、人々が放射線のリスクから身を守ることが支援する活動を始めました。

4月に入り人々は、未来への希望を「復興」に求めようとしています。学校が始まり、避難した人々も子どもと共に元の生活の場へ戻り始めています。「風評被害」「流言飛語」という、権力者が用意した偽の敵によって市民の間に分断が生まれる事態を、私たちは食い止めなければ

なりません。そしてまた、声なき未来世代や人間以外の生物に対して、取り返しつかないダメージをこれ以上与えるような事態は、なんとしても避けなければなりません。

私たちは、大地震と津波という天災と、原発事故という人災によって、これまでの生活の基盤を根本から揺るがされている被害者です。と同時に、こうした事態を招来した社会の一員で

もありません。今生命を賭けざるを得ない作業の方々、これまで原発労働での被曝により健康

や生命を損なわれた皆さんの方々、そして、何の責任もないにもかかわらず根こそぎこの影響を受ける子どもたち未来世代と、人間以外の無数の生命に対して、私たちは加害者であることを忘れてはならないと思います。

ミヒヤエル・エンデは、核の世界がもたらす現実を「未来世代への戦争」と言ったそうです。今私たち大人は、汚染地域から妊婦、子ども、将来出産する可能性のある若い人を、早急に安全な地域へ避難させるため、あ

らゆる努力をするべきです。

私たちの生き残り復興は、未来のいのちの犠牲の上にはなしえません。私たちの生き残り復興は、すべての生命の網の目の中で成し遂げられるものです。この2つのことを、今、皆さんと共有したいと強く願っています。

この原稿を書きながら4月11日の朝がやってきました。この1ヶ月を生き延び、この絶望的な状況に向き合い行動し続けてきたこと、たくさんの人とながらあえたことに、心から感謝します。

これからも、人間の勇気と叡智を信じます。進むべき先に「脱原発」を見定める人はこれから益々増えていくでしょう。この激流の中、どうか手をしっかりと握り合い、前に進みましょう。

HP: <http://hairoaction.com>
メール: info@hairoaction.com

*ハイロアクション福島原発40年実行委員会では、今後も、子ども・妊婦の一刻も早い避難を促すとともに、放射線量測定の継続、放射線防護のためのマニュアル作成と配布、子どものマスク着用の徹底のための働きかけなどを展開していきます。測定器購入ほか活動資金を急募いたします。皆様のご協力をお願いいたします。

カンパ送り先：
ゆうちょ銀行（店番828）
記号18220
番号32050281

6